

毛長川における水上交通の要

所在地：東伊興 4-9-1 伊興遺跡公園展示館



準構造船



井戸杵として出土した部材
後の調査で船の部材の一部であると判明。



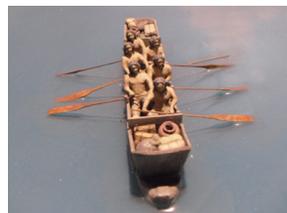
船の部材
伊興遺跡公園展示館にて展示中。

■ 足立区初めての實用船の出土

伊興遺跡からは丸木舟の部材が発見されています。これまでも足立区内では船の形を模した木製品は出土していましたが、實用船は初めての出土でした。古墳時代中期(5世紀頃)の遺物が一緒に出土していることから、船の部材も同時期のものと考えられます。伊興遺跡の最盛期である古墳時代中期に船が存在した意義は大きく、伊興遺跡の生活は毛長川に関連したものであったと考えられます。

■ 物資輸送の大型船

発見された船底を復元すると、全長8mに近い船になるようです。物資等の輸送にかかわっていた準構造船(注)の部材であることも考えられ、漁以外で活躍していた船だった可能性があります。



準構造船の復元模型

注 準構造船とは、丸木舟に波除の板の部品を組み合わせて造られた木造の船です。丸木舟に板を高く組み合わせることによって、船の大型化を可能としました。

文化財豆知識

伊興遺跡出土の舟形木製品

伊興遺跡からは船を模した木製品が出土しました。このような船を舟形といいます。舟形も準構造船であると考えられ、先端に見られる段差は波避けのための板を組み合わせていた痕跡のようです。毛長川を利用して、物資を運んだ船に関わる祭祀が行われていたことがうかがえます。



舟形木製品

